

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、内容を理解した上で意識化し支援に取り組んでいる。ご利用者の自立支援、自己決定、高齢者の尊厳を尊重した援助をおこなっている。	事業所内やパンフレット、ホームページなどに理念を掲示するだけでなく、会議などでも管理者が理念に触れて、職員に話しをしています。近々名札の裏側に理念を印刷等して、より周智を図り意識を高めていく予定とのことです。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と近くの商店等に買い物にでかけ利用者が地域とつながる支援をおこなっている。散歩などでは近隣の方に挨拶、言葉かけをしている。	コロナ禍の影響もあり、本来の密な交流は難しいが、地域自治会との連絡・連携や、地域の商店などへの買い物などは継続して、つながりを大切にしています。コロナ禍が落ち着けば、隣の保育園の園児との日常的な交流も計画しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を用いて地域の方に認知症の理解、支援方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告等や実際の現状を見て頂くことで事業所の理解を深めて頂いている。	開所して半年目の10月に初めて運営推進会議を事業所内で開催しています。コロナ禍のためそれまでも資料配布はして周知を図っています。参加者も地域包括、自治会、利用者家族など幅広く、運営状況などの報告も記録で確認できます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席を依頼し、事業所の実情やサービスの取組みを伝えている。	事業所のある地域の地域包括支援センターの職員や区役所の生活援護課の担当職員などと、日頃から連携を図って情報交換などに努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	研修を行い、虐待・身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束となる具体的な行為や弊害について職員間に共有している。ご利用者の状態を適切に把握しケアの工夫をおこなっている。	事業所開所後より運営されている虐待・身体拘束廃止委員会が中心となって、職員周智を図っている他、取り入れている外部の研修システムを活用して、虐待等について職員が理解を進められるよう取り組んでいます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学ぶ機会を確保している。毎月虐待・身体拘束廃止委員会も開催している。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を持ち、日常生活自立支援、成年後見制度について学んでいる。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等に際しては、面談時にご利用者、ご家族の権利や義務をできる限り分かりやすく説明し質問に応じており、十分に理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会及び電話連絡時に、報告に加え意見や要望を尋ね意見交換を行い運営に反映させている。ご利用者には日々の生活の中で意向や要望を尋ね、支援に反映させている。	居室で少人数での家族面会を再開しています。その面会時や事業所からの連絡時に、家族の要望や意見を聞き取って、ケアの見直しや運営にも反映させるように努めています。	家族からの要望の種類や大小にもよりますが、特に運営に関する要望や意見等については、その後の会議等での検討内容や家族へのフィードバック、職員周知などを含めて、記録に残していかなければいかげんか。
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	ホーム内は日常的に発言し易い環境にある。引継ぎミーティング、フロア会議等の時間を利用して意見や提案を出し合い運営に反映させている。	日々の引継ぎや職員間共有ノートなどを活用したり、職員会議の場で提案事項の検討や意見交換を管理者とともに進めて、運営に反映するように努めています。また職員面談も定例2回/年を設けるなどして職員から意見を聞く機会を設けています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や資格取得等により昇給の仕組みがある。職員研修の充実や資格取得支援の整備をおこなっている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は外部講師を招く内容が組み込まれており、職員が必要とする研修を受けられ、平等に研修に出席できる機会が持てるよう配慮し、職員の知識、技術の向上、育成に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は研修等に参加し他事業所と交流を深め情報や意見の交換をしている。同一法人のグループホームとも情報交換をおこないサービスの質向上に努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学、訪問調査時等に伺った時などご利用者のニーズや要望等を傾聴し丁寧な対応と説明を心掛け安心や信頼の関係づくりに努めている。入居前でも相談に応じることを伝えている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学、訪問調査時等に伺った時など不安や要望を伺い、受容と質問があれば納得いくよう説明をしている。入居前でも相談に応じることを伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時に健康面、生活面、経済面の状況を把握し本人に適したサービスが利用できるように他施設、事業所と連携をとり対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事の準備や食器洗い、洗濯をたんだりしていただいている。生活の中で慣れ親しんだことを活かしながら共に寄り添う関係を大切にしている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡等機会がある毎に近況の報告をしている。本人の思いをお伝えしご利用者の生活が豊かになるように精神面で支えて頂けるよう協力していただいている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会時には居室や相談室で気兼ねなく過ごせるよう居心地のよい環境作りに努めている。馴染みの人と関係が途切れないように電話やハガキを出す援助をおこなっている。	入居前に通っていた理美容院や眼科などのかかりつけ医などにも、引き続き通えるように支援しています。またコロナ禍で面会等が困難な時期には、電話や手紙を送るなどの支援も行っています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や互いの共通性を把握し、気の合う同士が交流を楽しめるよう、またトラブルにならないよう席の工夫するなど共同生活が円滑になるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても、いつでも相談に応じることを伝えている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向、希望を面談で伺ったり、日頃の会話の中でそれらを引き出せる言葉掛けを努めている。困難な場合は言動から読み取り職員間で検討し本人本位のケアが出来るよう努めている。	利用者の横に職員が寄り添って、日常の希望や意向の把握に努めている様子が窺えます。食事に関する希望などもメニューに反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様の聞き取りやアセスメントシートへの記入をお願いしている。施設や事業所に面談を実施する場合は了承を得て関係者から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容、様子や過ごし方を記録し申し送りで職員間の情報共有や現状把握に努めている。毎日のバイタル測定、食事や水分量、排尿排便のチェック、体重測定等で健康状態の把握を努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族からの情報や意向を取り入れながら心身の状態、生活の様子等をアセスメントし検討しううえで計画を作成している。	利用者・家族からの希望や日頃の生活の様子などからのアセスメントに基づいて介護計画を作成して、それぞれにあったケア提供を実施しています。その後のモニタリングや見直しも計画作成者を中心に適時に行われています。	事業所としても、計画作成担当者が中心ではなく、日頃のケアや支援の中心職種である介護職も主体となってケアプランを運用させていくことを今後の課題とされています。周知や記録の方法などを目標を立てて進められることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に則したケアの実践状況や経過を日々記録し情報共有の実践に活かしている。介護計画の経過にも記録し計画の評価、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族のその時の状況に応じ、買い物代行や衣類等の補充など必要な支援が出来るように努めている。多職種との連携でその状況に応じた相談や適切な対応ができるよう体制の整備に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により地域行事の参加、ボランティアの慰問は現在控えているが、ご家族や地域の方には協力を頂けるよう呼びかけを行っている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時には経過や生活の様子等の情報を提供し、医師からは観察事項や生活上の注意事項の指示を受け、ご利用者が適切な医療を受けられ、健康の維持、異常の早期発見ができるように努めている。	希望によっては入居前の主治医に継続してかかることも可能になっていますが、現状では切り替える方が多いとことで、主治医以外の眼科等のかかりつけ医に関しては、現在も受診している利用者もある状況です。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	近隣の訪問看護と医療連携体制をとり、週1回の健康管理を実施している。日常の様子、変化等を報告し気に掛かることは随時相談している。また必要時には迅速な対応が出来るよう24時間相談体制が取られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご利用者が適切な医療、看護を受けられるよう、必要な情報提供に努めている。入院中は病院関係者、ご家族様から状況や経過を聞き取り情報を共有しながらスムーズな退院、帰所後の適切なケアに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご利用者、ご家族の意向を確認し、その後も必要に応じて話し合いで再確認することとなっている。事業所でも出来る限りの対応と限界についても説明をおこなっている。	開所して半年が経過した段階であり、終末期ケアの相談や経験はありませんが、事業所としては利用者や家族の希望に応じて、訪問看護や主治医とも協力した上で、できる限りの支援に取り組んでいく方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、事故防止及び対策マニュアルを作成し熟知徹底するとともに研修で訓練をおこなっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中、夜間の火災を想定し避難訓練をおこなっている。運営推進会議で地域での火災訓練等の参加の為、開催日程等の情報提供を呼び掛けている。	日中設定と夜間設定の年2回の法定訓練を行っている他、運営推進会議などで地域の協力なども得られるように働きかけています。その他防災や避難設備、非常食の備蓄なども整っています。	火災の訓練の他、地域性に合わせて地震や水害に対する対策などもより充実させていくことを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>高齢者への尊厳を尊重し特に言葉遣い、虐待防止について指導をおこなっている。ご利用者の権利、人権を常に意識して適切な対応に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会や研修を通じて、言葉による行動制限の防止などについて周知を図っている他、普段の関わりや言葉かけなどについても、職員が互いに声を掛け合ったり指導するなど、徹底するための対策が取られています。見学でも尊厳に配慮した関わりが確認できます。</p>	<p>居室やトイレの入り口の目隠しや、共用スペースの他の利用者からの視線に配慮した空間づくり、居室での過ごし方の工夫など、集団と個別両方の過ごし方がより可能な環境作りが進んでいくことを期待します。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員はご利用者の思いを表出できる自己決定が出来る環境作りや言葉掛けをおこなっている。表出が困難なご利用者には言動からニーズを読み取り代弁するよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活ペースを把握して生活の中に楽しみを持ち、寛いで居心地のよい生活が出来るように支援している。活動や行事への参加は個人の意思を尊重している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>こだわりや好みをご利用者やご家族に聞き取りをおこない、これまでの習慣を尊重しながら、清潔を心がけ季節や場所に適した衣類等の提案に努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者の嗜好にあった料理や季節感のある食事を提供している。共に食事の準備や片付けをし、一つの食卓を囲み食事を楽しんでいる。</p>	<p>クックチルを活用して季節に合った食材や利用者の好みに合わせたメニューを栄養価にも配慮して選択しています。盛り付けや後片付け、食器洗いなど、利用者の状態に合わせて一緒に行うように取り組んでいます。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>バランスの良い献立を基に、個々の状態に応じた形態や量を変え、調理法にも配慮し、楽しく安全に食事が出来るように支援している。食事、水分摂取量を都度把握して健康管理に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人ひとりの状態に応じた援助で食後に実施している。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないように声掛けや誘導に努めている。	排泄記録を活用して、前後の状況から判断しながら、個別の排泄時間に配慮したケアをプライバシーにも配慮して実施しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況状況を把握し、医師、看護師と連携を取り個々にあった排便コントロールをおこなっている。水分を十分摂ることを心がけ毎日運動の時間を設け便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	開始時に声をかけて、その日に入浴をするしないや順番等の希望に沿えるようにしている。湯の温度や入浴にかかる時間を一人ひとりの好みに合わせ、ゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。	利用者と職員と一対一でゆったりとした入浴を楽しんで頂けるように配慮しています。浴槽の跨ぎが困難な利用者でも入浴が可能なように、リフト設備もあって個別に配慮した入浴も可能となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ居室やソファ等で休息を取れる環境を作っている。日中に活動の場を多く提供し夜間安眠のリズムが整うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、内服薬の用法、副作用について理解しており、間違いなく服薬できるようにチェックを職員2名以上でおこなっている。必要時には医師、看護師に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じた役割を家事や活動の場で持たせていただき趣味を続けることで楽しみを持てる支援をしている。散歩や野外活動で気分転換が出来るよう支援している。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には希望を聞き散歩に出かけている。ご利用者の希望を家族に伝え一緒に外出する等ご協力を頂いている。	感染症対策も実施しながら、事業所周辺での外気浴や地域への散歩、近くのコンビニへの買い物など、日常的な外出支援も積極的に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは基本的にグループホームの管理となっているがご本人の希望に沿ってご家族の了承を得て一部ご利用者が所持されることもある。近隣の商店の支払いはご本人が行えるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に沿い、日常的な会話を電話でしたりハガキを書く援助をすることでご利用者の交流関係が継続できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者は常に職員を確認でき安心できる間取りとなっている。必要に応じて遮光したり室温や湿度の調整の調整、換気をおこない快適に過ごして頂けるよう努めている。	外からの日差しも差し込む明るい空間で、玄関が面している府道の音なども気にならないように配慮しています。加湿器も完備して、室温や湿度管理もして、不快な匂いなども感じない空間となっています。	14.にも記しましたが、共用空間でも他の視線などに配慮した個別に過ごせる居場所作りなどが進むことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の落ち着く場所でテレビをみたり気の合う同士で談笑し過ごされている。状況に応じて座る場所を誘導し、皆さんが落ち着いて過ごされるよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご利用者、ご家族と相談し馴染みのあるものを置きその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室作りをしておき、入居後も相談しながらその時の生活に応じた居室になるよう工夫をしている。	居室にはそれぞれの家具なども持ち込めるようにして、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせるような工夫もみられます。ベッドなどの配置や向きなども個別に合わせた配慮がみられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、補助具の使用や環境整備にも気をつけながら出来る限り自立した生活が安全に送れるよう工夫をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない